



奇異雜談集_二

13
1790
2



和譜

^ 13
1790
2

門 13
番 1790
卷 2

奇異雜談集卷第二

目錄

- 一 戸津坂本めく女人信と遊て中とよ
- 二 紅森乃里胡瓜堂由来乃中
- 三 越中一と成せ此内婦一人地よかりて
- 四 高野の波治火とものく地顔よ魚とれん

書の新よ庵とくさし事

① 伊勢の浦に小傍園奥のみの事

② 獅み舌も鬼みと聲も

③ 江列の三場小者とうらに取札の札代は切れま

伊山崎の人ト人トされど

伊勢の後箱代り

さうさう事

奇異雜談集卷第二

① 戸津坂本ゆく女人傍と遊したる

徳よがとあも人地よあり

わが人新渡りゆく女人のちりしんからり此よ

地よかりし事。またわさりゆく。も人々曹

洞家乃ち此の傍。ゆく。空十河よりまはる。坂本は

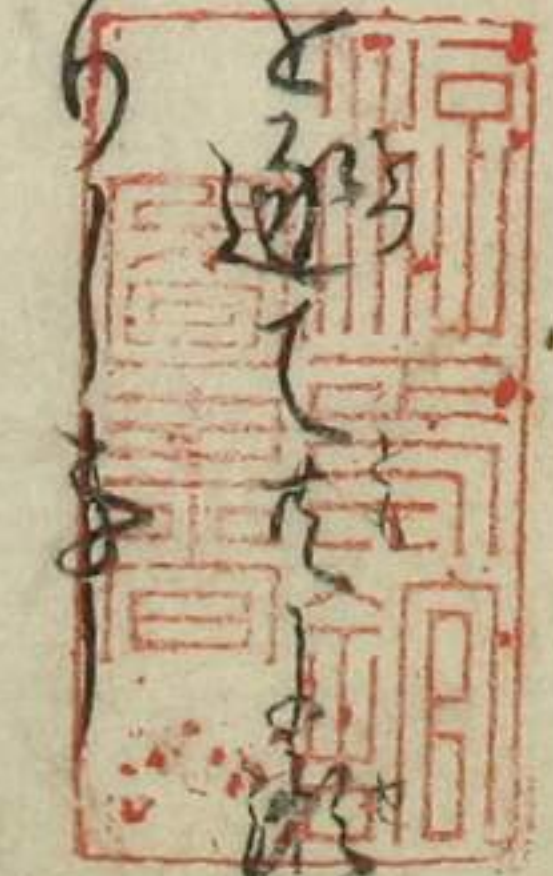
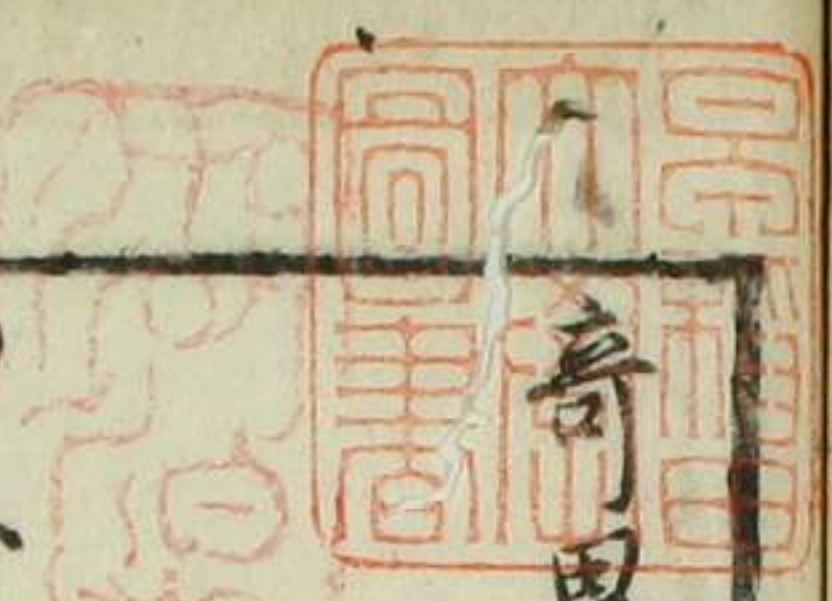
ゆき。りて一交とじま。び法渡とのよ。春山のうんせい。わ

る。人よ。ゆき。ま。あ。ん。ご。に。あ。り。と。小。庭。も。と。ま。り。く

り。り。地。下。に。あ。り。ま。り。ら。ん。と。婦。人。一。人。を。ま

し。く。あ。ん。ご。り。中。に。三。十。の。ま。り。り。り。毎。日。往。来

乃。り。り。に。二。度。三。度。往。来。す。る。も。の。内。に。あ。り。り。入。ら。り。ん



奇異雜談集



うまゝとてさしこり又くくかまわつて人
 くれとゆゑを惜こりくさく先いそくはうま
 ろんととれなき婦人移ろさけつて人か
 とえとあふ時ぬ人あつておるにうくせんと思
 ひてしんじとらに中より先く門とめく一二
 町移りてその婦人いかりかきこりては惜をい
 こくそくやんて肉をぬき門とめく婦人
 こまら門とめくこととれた二町づり南
 その新みやうり婦人とのちうくつ移りて
 ろゆ人。箇金剛をくやがれてはありて
 甲斐。一回ししむべとされくゆらぐが

風よりぬてう海へゆづる。海へは紙縹たる髪
まぶくされてうらにまきあひく。のらきを
らう海へ。坂中地下中とく。やまを。漢より移く。
見ゆ人も海へまき。わらひ。あひ。海へ移り
うら。海へ。うら。うら。うら。うら。うら。うら。
うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。
うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。
うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。
うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。

これとひ入る。あのこととみまの婦人。大地とる。川
く。傍とまひ。うら。うら。うら。うら。うら。うら。
うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。
二 兎の森乃里胡山。雲中集乃本
兎乃森とびり。あまゆり。保境なり。社及び。うら。
とみま。祚威とく。うら。うら。うら。うら。うら。うら。
うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。
うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。
うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。
うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。

飯酒とくじ七日の物タハ布帛のやうなるものきんう
をば坊へうひわりてののびんをば坊へうも
うかりめくふとてふとてふとてふとてふとてふ
その翌日よめとてふとてふとてふとてふとてふ
と尸内婦うらんでささ飯酒とてふとてふとてふ
あつてばめ日山とてふとてふとてふとてふとてふ
の目うれとてふとてふとてふとてふとてふ
海本礼盤おとめるひらうとてふとてふとてふとてふ中
が一人小者一人づらひにけつがわり内婦うらんで
くぢくのけうとてふとてふとてふとてふとてふ
ほどうとてふとてふとてふとてふとてふとてふと

てらうとてふとてふとてふとてふとてふとてふと
明とてふとてふとてふとてふとてふとてふと
一とてふとてふとてふとてふとてふとてふと
婦のちとてふとてふとてふとてふとてふとてふと
門あはとてふとてふとてふとてふとてふとてふと
ういあらとてふとてふとてふとてふとてふとてふと
とてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふと
とてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふと
とてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふと
とてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふと
とてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふと
とてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふと
とてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふと
とてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふと
とてふとてふとてふとてふとてふとてふとてふと



とらんく。婦人あつたにいらしてきりれ。衆いゆき
かきこまうしりて。みらののやうり。池のあつた
ぬび入くもらう。他も大地なる。法入あつたり。あ
みり。群とるせり。是くます。あつた。決りて。地
下り。管領へらう。まん。せ。人。殺。ころ。兵。卒。を
も。く。大地と。通。活。と。う。ゆ。め。の。く。お。の。の。め
池。と。う。先。地。と。う。ば。と。て。その。人。も。堂。と。う。の。の。り。い
と。の。の。く。堂。と。は。ら。り。佛。像。と。わ。ん。ら。り。も。た。と。ま
へ。の。の。婦。人。の。と。う。と。ん。あ。く。ら。地。神。受。作。の。ご。い。と。ま
と。う。あ。つ。あ。つ。り。ぬ。堂。と。う。り。も。ま。や。ら。心。存。入。り
胡。瓜。堂。と。う。は。く。ら。ま。り。應。仁。の。乱。中。に。地。下。民。衆。に。い

らんく。と。り。と。と。石。乃。堂。と。の。ら。り。て。今。に。あ。り。此。新。法
津。田。紹。長。と。い。ご。ん。り。て。う。く。ら。り

⑥ 越中にて 氏生内婦人地よかりて
とゆひし事

越中のみよ。も。呪。も。あ。わ。り。名。と。涼。幸。と。う。あ。涼。地。も
山。堂。と。う。の。が。り。て。一。年。ご。い。系。も。の。ご。う。ら。ん
よ。く。く。も。う。あ。つ。一人。の。お。侍。わ。り。名。ま。い。ひ。と。う。ま
ら。う。も。う。あ。つ。人。あ。り。は。保。よ。徳。事。と。う。の。ん。で。人。と
と。は。く。あ。つ。ご。う。ら。り。あ。つ。人。あ。り。も。う。は。保。り
と。う。あ。つ。その。ス。エ。の。ん。ご。ん。あ。り。て。さ。う。う。あ。つ。に。物。也。
内。婦。人。を。み。ら。ご。ん。を。と。う。と。う。念。と。ひ。と。う。人。と。は

のらりと門よりみまに性巻のこぼれを代もやがら
 て人地こころりして世身わたりまらんとくらりか
 したくもみなりゆきそとらふゆいにく地もくわし
 にくくありありいひりしてされとの地は下流
 してゆきありつたまらりありありとくらりて
 ちとくといまこましく世身わたりのらとむく
 らと放火しく地もやこころりさくといくみま
 もいとこころひくねのゆりては人みま
 よ火とほりたむくまらみへ世身わたりわきや
 もぼろぬらやうあいのらんやうふく地もありの下
 られど人地宛たる人なりじまわくはじりありあり

ありくは世一人地こころりてやち死し
 灰とありてまらむねりて是されくらしにみる
 よわいも人こころりてふるりては

四 多野の放火とりのく地の類り点

どれれ書の内容よ度つてこころり

わか人のごころもんよりこころりては法傍のるに
 職人のとらふありはけりて字とるゝ御女人を
 けりし地さうゆいよこれ書よとてぬりしの書に
 てお定とく人山と職商のこころりてはこころり
 するより十日十日十日十日ありてはこころり
 書の事と見せり。二日三日とてはこころりては

果^く今^{いま}中^{なか}一^{いち}僧^{そう}と^とひ^ひひ^ひて^てさ^さた^たれ^れま^ま
 け^けと^と世^よと^とは^はく^くの^のり^りと^とし^しも^も書^かけ^けら^らん^んま^ま
 け^けて^て座^ざと^と顔^{がん}の^のり^りと^とし^しも^も書^かけ^けら^らん^んま^ま
 と^とれ^れも^もど^ど公^{こう}地^ちの^の愛^{あい}け^けら^らん^んま^ま
 ら^らと^とま^まけ^けり^りと^とれ^れと^とま^まよ^よ女^{にょ}人^{にん}の^の念^{ねん}と^とら^らや^やえ^え
 の^のり^りと^とし^しも^も書^かけ^けら^らん^んま^ま
 果^く今^{いま}中^{なか}一^{いち}僧^{そう}と^とひ^ひひ^ひて^てさ^さた^たれ^れま^ま
 け^けと^と世^よと^とは^はく^くの^のり^りと^とし^しも^も書^かけ^けら^らん^んま^ま
 け^けて^て座^ざと^と顔^{がん}の^のり^りと^とし^しも^も書^かけ^けら^らん^んま^ま
 と^とれ^れも^もど^ど公^{こう}地^ちの^の愛^{あい}け^けら^らん^んま^ま
 ら^らと^とま^まけ^けり^りと^とれ^れと^とま^まよ^よ女^{にょ}人^{にん}の^の念^{ねん}と^とら^らや^やえ^え
 の^のり^りと^とし^しも^も書^かけ^けら^らん^んま^ま
 又^{また}と^とし^しも^も書^かけ^けら^らん^んま^ま

と^とせ^せり^りひ^ひえ^えと^とり^り書^かけ^けら^らん^んま^ま
 け^けと^と世^よと^とは^はく^くの^のり^りと^とし^しも^も書^かけ^けら^らん^んま^ま
 け^けて^て座^ざと^と顔^{がん}の^のり^りと^とし^しも^も書^かけ^けら^らん^んま^ま
 と^とれ^れも^もど^ど公^{こう}地^ちの^の愛^{あい}け^けら^らん^んま^ま
 ら^らと^とま^まけ^けり^りと^とれ^れと^とま^まよ^よ女^{にょ}人^{にん}の^の念^{ねん}と^とら^らや^やえ^え
 の^のり^りと^とし^しも^も書^かけ^けら^らん^んま^ま
 又^{また}と^とし^しも^も書^かけ^けら^らん^んま^ま

びくつに於て人海寺應仁中よ寺のいんらん
 一龍傳不くよぬとと波庵和尚乃其書
 記字の半唐俗姓々中村りり近と一見とら
 ぬ伊勢のふま体也よ漢村あり山のあり小唐わ
 くのかりたさしてこれとを糸弁妙なりり小唐乃
 物よありともて休息と唐主おとさうくゆんをふ
 物とよびく茶と喫せりめりりつよ小唐景とよりらさ
 ぶ半唐世小唐とこれじんとして人とらるにじん
 とわや一としてほくぐこれと唐主のいんくは小唐の園
 奥のありりつとつじ半唐るばわや一としてそのゆん
 とらる唐主れいんぬの漢村よむりりれいし

ありんかふ園魚とけりえりりりらてあやうらて
 わよのもことけりりその用印のいんくとえんく人のい
 きたりゆゆよあまをさるびん人のいんくあやんか
 らいんくはゆゆよあまをさるびんれいりりて唐屋よ
 けりり十月とらるくまよ園奥とらりて君のよあり
 他よのいんく君のありありらりてりりりりりりりりり
 みくまよあまをさるびんれいりりりりりりりりりりり
 ちのよありありりりりりりりりりりりりりりりりりり
 みありりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 里りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 といんやんよありりりりりりりりりりりりりりりりりり

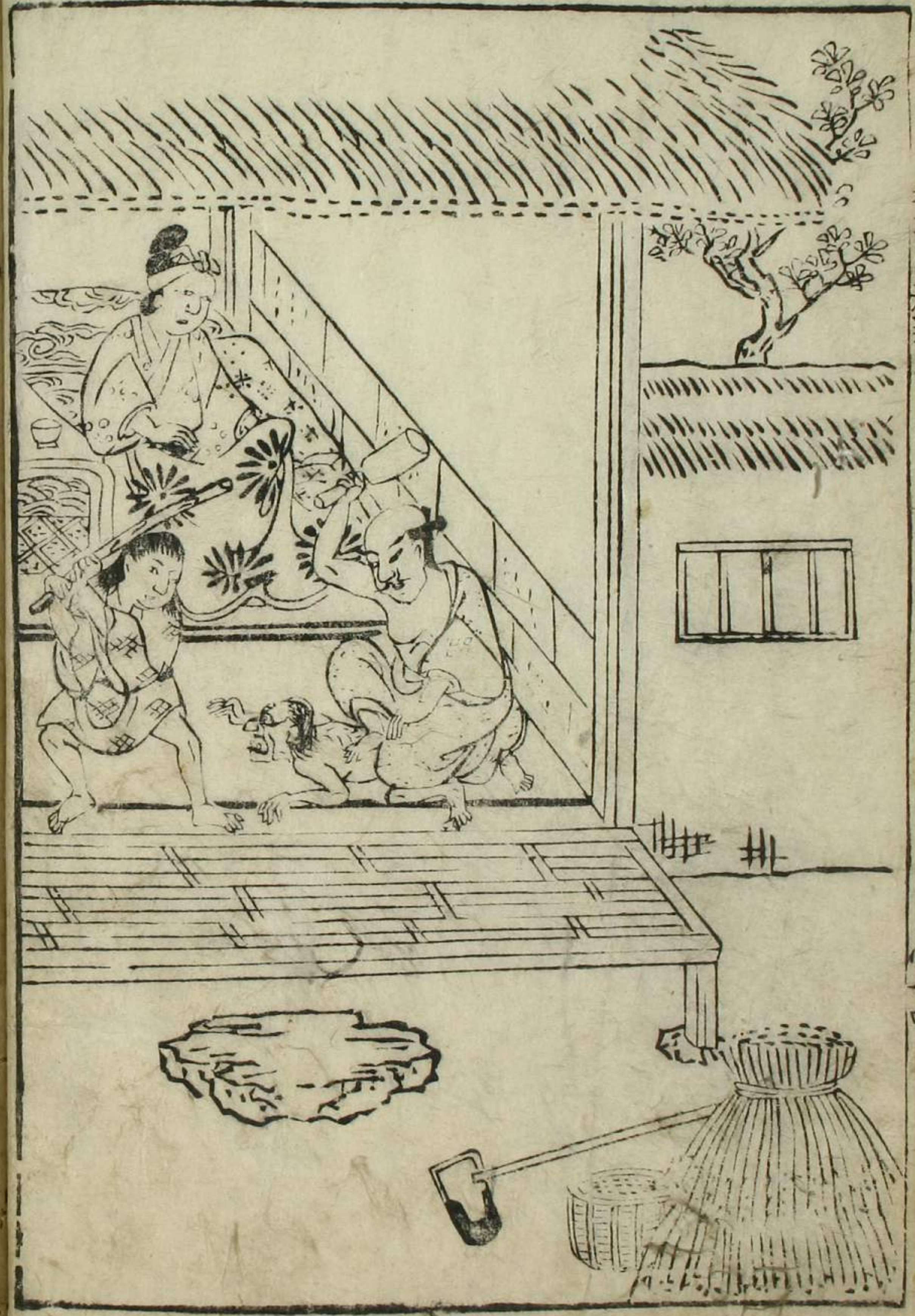
うらなかり

本草に園魚あり是別なり今園魚も字
不詳詳と書之

(六) 獅子岩ゆく鬼みと唐一車

系乃の山獅子の岩れ一村々小里なり明應七年の
ころり地下人の妻唐乃内系夫が地となり
三度よとよふ一歳の唐よ男みとらじは孫の人なり
是唐みなり二歳の唐よ夫形物とらむ
妻の唐よ抱みとら目とらめりは
とらつらんぬ唐の唐なり鬼みとらじ
とらつらんぬ唐の唐なり鬼みとらじ

とらつらんぬ唐の唐なり鬼みとらじ
とらつらんぬ唐の唐なり鬼みとらじ
とらつらんぬ唐の唐なり鬼みとらじ
とらつらんぬ唐の唐なり鬼みとらじ
とらつらんぬ唐の唐なり鬼みとらじ
とらつらんぬ唐の唐なり鬼みとらじ
とらつらんぬ唐の唐なり鬼みとらじ
とらつらんぬ唐の唐なり鬼みとらじ
とらつらんぬ唐の唐なり鬼みとらじ
とらつらんぬ唐の唐なり鬼みとらじ
とらつらんぬ唐の唐なり鬼みとらじ
とらつらんぬ唐の唐なり鬼みとらじ
とらつらんぬ唐の唐なり鬼みとらじ
とらつらんぬ唐の唐なり鬼みとらじ
とらつらんぬ唐の唐なり鬼みとらじ
とらつらんぬ唐の唐なり鬼みとらじ



うとぶー一柳みあふの鬼みりりてんもくしら
 うとぶー一とんことりんぐもぶとらうと
 よはひよまらぶとらうとらうとらうとらうと
 とほちていそまよらうとらうとらうとらうと
 その百肩はくしとあしをなれど茶中の法入
 みくぐららむとらうとらうとらうとらうと
 寺の栖安好琳公とらうとらうとらうとらうと
 うらうとらうとらうとらうとらうとらうとらうと

七 江戸の三塚小者とらうとらうとらうとらうと
 一 事年山崎の人とらうとらうとらうとらうと
 箱代なとらうとらうとらうとらうと

江戸の三塚小者とらうとらうとらうとらうと

まりあぢんのまゝとて西彦のぶぐんをのんけまら
 ぶへくはぢんゆりしゆうしきせははぢんけいし
 てどのま代よひのひるしりしきあやだにをぢよな
 びとをぢよゆげを松原門よらてあさり。あへひ
 しんけりしやぢんしんせしきらつてこのねまへ
 極く三塚らりしてまじりしりまひしりまへ
 しまめくごうしきまもひりよらつてしんせ
 一しりしりしりしりしりしりしりしりしりしり
 をいしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり
 こして四方よひのひるしりしりしりしりしりしり
 しりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり



青島巻三

されどあはれとみくゆらぬひらりなごころ
 くらりまよふ人よえとれだまひらりなごころ
 ぬのほろりけりゆらゆらゆらゆらゆらゆら
 たりと人々をゆらゆらゆらゆらゆらゆら

わいふなり

奇異雜談集卷第二終



